

〈9〉 家庭との連携
 (1) 取り組みの内容とねらい

内 容	ね ら い
ヘルス情報の発行	従来からあった学校としての保健だよりも、高等部独自に生徒の様子・学校の取り組みを保護者に知ってもらおうと考えた。また、からだに関する様々な知識を取り上げ保護者の意識を高めたいと考えた。
学部研修会	本校の取り組み・生徒の実態を基に保護者との話し合いを持ち、その中で更に家庭での取り組みへの意識を高めたり、保護者の意見を基に学校側の取り組みを見直したいと考えた。
生活ノートの利用	毎日家庭との連絡に利用している生活ノートを見直し、毎日のからだに関する情報交換をしたいと考えた。

(2) 実 践

・ヘルス情報の発行

まとめ

発行の意図としては、保護者に歓迎された。しかし、学校からの一方通行になってしまった。もっと内容・発行の時期を考えていかなければいけないと反省させられた。保護者からの意見がもっと出てきやすいように工夫を重ねていきたい。

・学部研修会

第一回研修会
昭和63年7月12日火曜日
主な内容
本校の取り組み、高等部の取り組みの方向について紹介した。そして、1学期に行なった各種の測定・検査の記録をもとに本校生徒の実態の理解をしてもらおうとした。特に、本校の生徒の体格は、脂肪が多いとの学校的な把握を示して、夏休みにおける生活への配慮を促した。特に体重は、人の体調のバロメーターであることを強調し、生徒の体重に対して、もっと気を付けるように働きかけた。

保護者の反応

非常にたくさんの保護者が出席された。保護者の方も子供のからだけではなく、本校・高等部の取組みには賛同されることが多い。また、こういった意見を多く持つた。この意見をもたらす部会は、夏休みに開催された。生徒の肥満についても保護者と意見交換することができ、夏休みに会を終えることができた。

第一回のまとめ

会の方向として、内容が少し肥満ということにかたよってしまい、生徒の実態の全体像をつかんで肥満についても意見を深めたい。やや疑問が残る。しかし逆に体重は、身体のバロメーターであるという意識を持つことができる。8割近くの家庭がほぼ毎日生徒との体重測定をしていましたという結果を得ることができた。研修会としては、予想以上の反応が得られたのではないだろうか。

第二回研修会

昭和63年11月9日水曜日

主な内容

生徒と保護者が一緒に運動をするという場を設定した。単に体育の学習を見学するのではなく、一緒に運動をすることで、子どもの持つ力を知ってもらい、家庭でもできる運動を見つけてもらおうと考えた。内容としては、Aグループが『なわとび運動』、Bグループが『ビーチボールバー』である。

保護者の反応

久しぶりに運動するという方も多い、保護者自身がとても楽しんでおられた。また、子どもたちの姿を見て、・思ったよりうまくできた・これなら家庭でもできるなどといった意見が出され、会のねらいは通じたようだった。

第二回のまとめ

会が午前中だったこともあり、参加された方が、前回の約半数とやや少なかったが、教官・保護者・生徒が一緒に運動して想の感覚の中見えた。保護者の意見の中でもいい、という意見の中見えた。保護者が一歩踏み出していくことによって、時間がこんな会ができる。これからも、このような運営で会を持ち、生徒と保護者が一緒に運動するという場を作っていくことを希望する。

・生活ノートの利用

a) ねらい

- ・より健康なからだづくりをすることや、運動を日常生活の中に取り入れることの必要性が分かり、それを家庭でも実践しようという意識を高める。
- ・特に肥満傾向の子どもを持つ保護者に対して、間食の実態に気付き、それを少なくしていくことが必要なことの理解を高める。
- ・子どもの体重の増減を知らせることで、好ましい食生活やリズミカルな生活（動きのある生活）をすることが必要なことの理解を高める。

b) 方法

生活ノートに以下の欄を設けて情報の交換をし、学校・保護者が連携して「からだづくり」を目指す。

〈今日のヘルスメモ〉

今朝の体重	間 食		運 動	
	内 容	時 刻	学 校	家 庭
kg				
昨日との比較				
g				

3. 実践の様子

このヘルスメモを取り入れてまだあまりたっていないが、多くの家庭で、間食や運動に気を配り始めたようだ。担任と保護者の間に運動や間食の話題が上がることも多くなってきており、このまま続けるといきたいと考えている。現在は、学部全体でほぼ同じ形式のヘルスメモとなっているが、少しずつでも生徒の実態に合うように、学級あるいは一人ひとりに応じて改善していくようにしたい。